

開 会

委員 長

第3回の行政評価委員会を開催させていただく。本日は午前と午後の1日となるが、よろしく願います。

外部評価というのは、行政だけで評価しては客観的でないと批判から導入されており、委員の皆さんの様々な知識やご経験に基づいて、総合計画に基づく施策、事務事業が目的と手段として実施されているか、同じく実施するのであれば費用対効果を考えてムダなく実施されているかなどを評価いただきたい。また、外部評価の指摘、提言が市政に活かされることも大事である。

本日の傍聴希望者はあるか。

事 務 局

傍聴希望者はない。

委員 長

それでは議題1の第2回行政評価委員会のまとめについて議論をいただく。資料1の議事録について何かご意見はあるか。軽微な修正を事務局にお願いして、これで確定とさせていただく。

次に資料2の評価のまとめについて、確認を行っていききたい。資料2-1は第1回の評価のまとめで前回修正があった部分である。施策展開の方針の【市民と行政の協働 1 協働の基本原則や形態などを定めた、宝塚市版の「協働の指針」を策定し、協働をさらに推進します】では、委員の意見が分かれていた。市民や事業者と行政の窓口については市民協働推進課が担うのか、それぞれの部署で担当者を置いて担うのかといった意見であった。最後の委員会において今年度のまとめを行いたいと考えているので、それまでに各委員においてイメージを膨らませておいて欲しい。そこで委員会としての意見を確定させていただく。

次に資料2-2は第2回の評価のまとめである。それぞれについて確認を行う。

【情報化 1 利便性、サービス向上を実感できる電子市役所の実現をめざします】

委員

民間でもできる内容の研修は民間に任せるべきとあるが、市民からパソコン研修について問い合わせがあれば、どこでどのような研修がされているといった案内していただきたい。

委員 長

これまで行政が行ってきた研修をなくすのであれば案内を実施することや、問い合わせに対応することは必要である。

委員

民間のパソコン会社とあるが、民間事業者でいいのではないか。また研修より講座としたほうがよい。

【情報化 2 ICTによる効果的な情報発信・情報交流を推進します】

委員

ICTとは情報化のことだと思うが、かなり広い範囲を指す。市民にとって分かりにくいのではないか。

委員 内容が評価となっていないのではないか。他の評価のように、どうすべきである
とまで書いた方がよい。

委員長 「更なる工夫、魅力アップが必要と思われる。」の部分で「更なる工夫、魅力ア
ップを図るべき」とし、「ICTを使った交流に関する事業が弱いのではないか。」の部
分を「ICTを使った交流に関する事業が弱いので強化すべき。」とさせていただく。

【情報化 3 情報セキュリティを強化するとともに、ICTのさらなる利活用など高度利用を推進し
ます】

- ・ 特に意見なし

【行財政運営 1 行政マネジメントシステムの機能を強化し、「持続可能な行財政運営」の実現に
取り組みます】

- ・ 特に意見なし

【行財政運営 2 市民参画を推進し、協働型の行財政運営をめざします】

- ・ 特に意見なし

【行財政運営 3 「地域主権の時代」に対応する機能的な執行体制の整備を推進します】

委員 「常に適正な形、人員」とあるが、「常に適正な組織及び人数」としてはどうか。

委員 「宝塚市の実情に応じて」とあるが、市の財政状況によって変わるため幅が広い。

委員長 政策に応じて各課に配分されるマンパワーをうまく動かす必要があると説明させ
ていただいていたが、全体についてもふれるよう表現を修正したい。「常に適正な形、
人員に保たれるよう、見直しと改善を継続する必要がある」は「適正に保たれるよう、
見直しと改善を継続する必要がある」と修正させていただく。

【行財政運営 4 自ら課題を発見し、企画し、協働を重視しながら、行動する、意欲と能力を持
った職員を育成します】

- ・ 特に意見なし

【行財政運営 5 行政に対する市民の信頼獲得に努めます】

- ・ 特に意見なし

| | |
|---|---|
| <p>【基本目標】 保健・福祉</p> <p>【施策】 保健・医療</p> <p>【施策展開の方針】『1 保健・医療・福祉が連携し、総合的な保健・医療サービスを提供します』 『2 市立病院の経営基盤の確立を図るとともに、医療機関の連携を推進するなどし、地域での良質な医療サービスの提供に努めます』 『3 市民が安心できる救急医療体制の充実に努めます』</p> | |
| 委員長 | 保健・医療については3つの施策展開の方針をまとめて審議いただくことになったので、様々な観点からご意見をいただきたい。 |
| 委員 | 保健・医療2で、「かかりつけ医の啓発をより積極的に行う。」とあるが、誰が啓発を積極的に行うのか、行政が市民に対して啓発するのかを教えてください。 |
| 病院経営統括部室長 | 市の方で、市民の皆様を対象に、例えば広報誌や、市立病院のホームページなどを通じて、かかりつけ医を持つことを啓発しており、病院に来られる方については、市立病院の待合に横断幕を掲示するとともに、市立病院の庁内放送でも案内を行っている。 |
| 委員 | そうであれば、病気になって初めて病院に行って、かかりつけ医を理解することになるのではないかと？ |
| 病院経営統括部室長 | 広報誌では、最初の治療は身近なところにある、かかりつけ医を受診してほしいとの記事を掲載しており、健康な方もご覧いただいていると考えている。 |
| 委員 | 今の市立病院のシステムでは、外来の初診で行った場合に、紹介状がなければ、お金が千円か二千円か余分にかかると聞いている。どうして、そのようなことをしているのか？それは、混雑を防ぐためにやっているのか？ |
| 病院経営統括部室長 | 選定医療費、俗に言う初診料加算であるが、国からの通知により宝塚市立病院は急性期病院の指定を受け、二次救急を担う高度な医療機関として位置付けられており、初診患者の外来を抑制するという意味で、初診料加算（1,050円）の制度を設けている。 |
| 委員 | かかりつけ医について、広報誌、ホームページに掲載している旨の説明はあったが、もっと市民に接した啓発の方法はないのか？ |
| 健康長寿推進室長 | 行政としては、それぞれ担うべき機能があり、市立病院で言えば、先ほど述べた急性期病院の役割があり、我々が所管している救急応急診療所や阪神北広域こども急病センターは、開業医のドクターが休みの時に対処するという役割がある。しかし、それはあくまで、応急の対応であって、その後は、日頃からよく行かれているかかりつけ医に行って、診療してもらってほしいと言っている。行政の役割としては、市民が |

| | |
|--------|--|
| | <p>最初から、救急病院を頼ることなく、身近なかかりつけ医と信頼関係を構築してもらうようにすることが責務と考えている。</p> <p>そして、そのことをチラシやパンフレットを作成し、時にはインターネット、広報誌など、様々な媒体を通じて、市と医師会と共同で、市民に対して啓発している。</p> <p>救急車をタクシー代わりに利用されている人がいる中で、市としては、医療の役割分担として、かかりつけ医の利用のPRを今後も継続して実施する必要があると考えている。</p> |
| 委員 | <p>了解した。</p> |
| 委員 | <p>保健・医療2の看護専門学校事業で、平成23年度から看護専門学校の定員を50名から40名に変更したとのことであるが、行革推進委員会の提言書の中では看護専門学校の今後の在り方について書かれており、その中で、職員配置や雇用形態も含め、更なる経費の節減に努めると記入されている。</p> <p>また、他市の学校に比べて授業料が低く設定されていて、入学金や受益者負担金も他市の機関に比べて低くなっていると思うが、看護師不足の中、すべての卒業生が市立病院に就職しているのなら、その役割を担っていると理解できるが、他の医療機関に就職している卒業生が多くなっている状況がある。</p> <p>今後、行革の提言書に基づいて、事業の改革を行っていくのか、それとも、評価表に書かれているように、このまま事業を続けるのかについて、教えてほしい。</p> |
| 看護学校参与 | <p>まず、一点目は、行革委員会の提言書にもある経費面の改善についてであるが、平成23年度の入学生から授業料を月額2万円から3万円に増額している。同時に学期末試験について、落ちた学生に、再度受験する際の料金を徴収していなかったが、平成23年度より、1科目当たり千円の再受験料を徴収している。また、色々な成績等の証明書類についても、市の規程に基づき1件当たり300円を徴収し、収益の確保に努めているところである。今年度の4月に入学した学生で、すべての学生の授業料が月額3万円になっており、今年度より、収益の拡大がより図られるものと考えている。二点目の就職の状況であるが、昨年度は、46名の卒業生中34名が市立病院に就職しており、過去最高の人数が就職したことになった。</p> <p>今年度は、22名の卒業生が市立病院に就職しており、過去からの累計では、1期生から16期生の卒業生706人中360人(51%)が市立病院に就職していることになる。しかし、最近の傾向として、卒業後、再度、大学に編入し助産師、保健師の資格を目指す者も多くいることから、100%市立病院に就職するという状況に至っていないというのが、実状である。</p> <p>また、近隣の病院等には、奨学金制度を独自に持っている所もあり、本市では、残念ながら、市や市立病院にそのような制度はないが、奨学金制度を受ける学生は、卒業後、何年間かは、奨学金を受ける病院に勤務するということが条件となっている所もあることから、奨学金を受ける学生の一部が、他の医療機関に流れている実態はあると確認している。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>委員</p> | <p>ということは、財政的にも良くなっているということなのか？ 入学する人が10名減っても、それに伴い教員も減らして、経営的には良くなっているということなのか？</p> |
| <p>看護学校参与</p> | <p>先述のとおり、収入増には努めている 平成24年度の人件費を含まない事業費は、約3千万円となっており、受益者負担としては、約5千2百万円の収入を上げている。 事業費ベースでは、受益者負担金で賄えているという状況である。 但し、一番経費がかかるのが、人件費である。 当看護専門学校では1年から3年の定員120名に対して法律上8名以上の選任教諭を置かなければならないことになっており、そういった中で、人件費までをカバーできる状況とはなっていない。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>それでは、普通に聞くと、赤字ということですね。 人件費も含めての運営ということが、前提だと思いますが……。 私は、市外から来ているということもあり、細かいところまで、よくわからないが、宝塚市の看護学校は、20年近い歴史があるが、そもそもの設置の必要性というのは、どういう所にあるのか？地域医療に根ざした医療ということでは、多くの自治体でも取り組まれており、そのことについては理解するが、これだけの都会で、特に居住に不利でもなく、ものすごく特殊な介護ニーズがあるわけでもないのに、敢えて市役所が看護学校を経営しなければならない必要性について伺いたい。</p> |
| <p>看護学校参与</p> | <p>宝塚市が平成7年に看護専門学校を設立した目的は、市立病院の300の病床数を平成10年度に500の病床数に増床する計画があり、その時に市の医師会より、市内の病院の看護師を一斉に市立病院に吸い上げたりすることがないように、また、市独自で看護師の確保するようにとの意見があった。そのために、第1期生の卒業が市立病院の増床に間に合うように平成7年に設置されたと聞いている。 現状としては、全国的にも看護師の資格を取る方は、たくさんいるが、離職率も大変高くなっており、なかなか、必要な人数を確保できる状況ではないのが実状である。そのため、宝塚市においては、看護専門学校から一定数の看護師を市立病院に供給できているということで、市が担うことに非常にメリットがあると考えている。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>話の展開上、市立病院の今日における必要性についても伺いたい。 公立病院でなくても、高度医療ができる病院は、阪神間にはたくさんあると思うが、敢えて市が、病院を運営していく必要性について確認をお願いしたい。</p> |
| <p>病院経営統括 部室長</p> | <p>保健医療の中で、宝塚市は、阪神北医療圏にたっているが、その中に大学病院はなく、大きな病院としては、伊丹市立、宝塚市立、三田市立、川西市立があり、民間病院だと関西労災病院、近畿中央病院がある。宝塚市内では一番大きな病院は、宝塚市立病院ということになり、その他に第一病院、宝塚病院等がある。</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>委員 長</p> | <p>23万人の宝塚市民がいるが、その中で、一番大きな総合病院として、宝塚市立病院が存在しており、病床数、医師数をとっても一番多く、救急医療にも力を入れており、そういう意味でも必要性があると考えている。</p> |
| <p>病院経営統括 部室長</p> | <p>一定の圏域の中で、高度医療を実現していくために市が行っているということですね。</p> |
| <p>委員</p> | <p>その通りである。</p> |
| <p>看護学校参与</p> | <p>看護専門学校について、卒業生は、100%市立病院に就職することを義務化するようなことはできないのか？また、法的にたとえ強制できないにしても、卒業生の半数近くが、市立病院に就職しているのは、何か誘導策を講じているのか？</p> |
| <p>委員</p> | <p>まず、1点目の義務化できないのかということについては、先ほど述べたように、奨学金制度等で義務化しているケースを除いては、法律上何もない中で、勤務先の選択の自由を奪うようなことはできないと考えている。次に2点目については、当看護専門学校の場合、特にメリットがあるのが、実習病院としてすぐ隣に市立病院があり、半分以上の課程で市立病院を使用しており、また、卒業生もたくさんいるため、学生にとっては、実習の時から病院に馴染むことが可能で、先輩に何でも相談できるという環境があり、そのことが市立病院に安心して学生が就職できるということに繋がっていると考えます。</p> |
| <p>委員 長</p> | <p>看護専門学校の設立の話の中で、看護師の離職率が非常に高いとの話があったが、それを埋め合わせるために、卒業生を投入しているように感じたが、実際に離職率は何の程度の割合であって、その対策はどのように取られているのか？</p> <p>そこが、上手くいけばもう少し定員を減らしたりすることに繋がると考えるが。</p> |
| <p>病院経営統括 部室長</p> | <p>市立病院については、具体的な離職率は掴んでいないが、毎年20人から30人程度の看護師が辞められている実態がある。</p> |
| <p>委員 長</p> | <p>看護師の全体人数はどれくらいか？</p> |
| <p>病院経営統括 部室長</p> | <p>350人程度である。毎年、新卒と合わせて、随時募集ということで欠員の補充をしている。若い看護師については、結婚して、産休で休職に入られるということもあり、その補充については派遣看護師でまかなっているという状況である。</p> |
| <p>委員 長</p> | <p>一定の流動性はあっても、コアになる層が居れば、一定の看護師が入れ替わっても困ることはないのではないのかというドライな考え方も成り立つと思うが、その見方についてはどうか？</p> |

| | |
|------------------|---|
| <p>委員長</p> | <p>看護師は大きく分けて、外来担当と病棟担当があるが、外来担当は医師の診察もあり、決して誰でもよいというわけではないが、高度な技術はあまり求められない。病棟担当になると体温、脈、点滴、排せつ物の処理等の様々な処置を伴い、日中、夜間という24時間勤務をしいられるので、知識や経験を積んだ看護師の配置が必要不可欠である。日中はベテラン看護師に若手を組み合わせる等の配慮もしている。</p> <p>看護師自体は、一定の技術をもって、色々な病院を転々としていると思うが、委員の皆さんにお聞きしたいのは、宝塚市は看護専門学校を募集の確保等の苦労がありながらも運営されていて、その必要性については、先程、伺ったとおりであるが、それでも看護専門学校が必要と考えるか、何か他に工夫する余地があると思うか？</p> |
| <p>委員</p> | <p>保健・医療2の総合評価で、今年5月に市立病院が地域医療支援病院の申請を行うとあるが、この内容について具体的に教えてほしい。</p> |
| <p>病院経営統括部室長</p> | <p>地域医療支援病院の申請を県に承認されると、診療報酬上の加算が認められることになる。但し、そのための要件として、地域の診療所からの紹介率が40%以上なければならないということになっており、逆に市立病院で診療された方を地域の病院に逆に紹介する率も60%以上なければならないということが要件となっている。</p> <p>その要件を現在、市立病院がクリアしているため、制度に則って、県に承認を受けられるように本年4月に申請しているということである。</p> |
| <p>委員</p> | <p>承認が県から受けられれば、県から市に対して何らかの補助が有るということか？</p> |
| <p>病院経営統括部室長</p> | <p>保健点数上、有利な取り扱いになるということである。</p> <p>地域医療支援病院の承認を得ることで、診療報酬上の加算が認められるということである。</p> |
| <p>委員</p> | <p>病院の収入が増え、赤字解消にもつながるということか？</p> |
| <p>病院経営統括部室長</p> | <p>その通りである。年間数千万円程度の収入に繋がると考える。</p> |
| <p>委員</p> | <p>看護師の離職率については、正確な数字は分からないということであったが、他の市も同様の悩みを持っているのではないかと思うが、他の市との連携の話が出てこないが、宝塚市独自で問題を解決できるのか？</p> |
| <p>病院経営統括部室長</p> | <p>看護師確保については、病院間では取り合いとなっている。国の基準で患者に対する看護師の割合があるが、7対1の看護ができれば、保険点数上有利な加算が働くということになっており、一定の大きな病院では、7対1看護に向けて、看護師の採用を実施しているところである。</p> |

| | |
|-----------|---|
| 委員 | 例えば、伊丹市では宝塚市と同様に看護学校を持っているのか？ |
| 看護学校参与 | 伊丹市には有りません。 |
| 委員長 | 市立看護学校を持っているといのは、かなり有力な市に限られると思う。 |
| 委員 | 看護師の取り合いになるから無理なのか、例えば財政上、各市と合同で看護学校を運営するということは無理なのか？ |
| 委員長 | <p>法律上は可能かと思うが、そもそも民間の学校にも看護学科は有って、例えば近隣の宝塚大学にも看護学科あり、西宮の医師会も看護専門学校を持っている中で、そういう所と共同してできないかとの趣旨で、先程の質問と回答に繋がっていると思う。</p> <p>市が直接経営することで、苦勞して人を集めて、なんとか上手に経営しているというのが、自己評価の理由であったと思う。</p> <p>民間と上手く協力して行った方が、看護師の供給先があるのだから、もっと節約できるのではないかというのが、私の考えではあるのだが。</p> |
| 委員 | <p>この総合計画も協働を核としてということ謳い文句にしているので、例えば、市民病院の隣で、市立病院を実習先にするを条件として、学校法人等の民間に入ってもらい、看護専門学校を民営化することも可能ではないかと思う。</p> <p>民間の学校法人に運営してもらうことにより、上手く生徒を集めてくることも可能であり、効率化できるところは、効率化できると思う。</p> <p>実習先を市立病院とすることで、愛着を持って、市立病院に勤務してもらうことも可能で、今まで通りになるのではないかと考える。</p> |
| 委員長 | 民間の病院と市立病院では、看護師の給与や待遇が異なるし、どこで看護師を養成するかということが根本的な問題になると思うが、看護師の養成を外部に頼った場合には、パイの奪い合いとなって実質的に看護師を採用するとことに問題が生じるのかについて再度教えてほしい。 |
| 病院経営統括部室長 | 市立病院に新卒で採用試験を申し込まれる方は、ほとんどが市立看護専門学校の卒業生であり、それ以外の看護学校を卒業されて受験される方はかなり少なくなっている。 |
| 委員長 | 市立看護専門学校がないと考えた場合はどうか？ |
| 病院経営統括部室長 | <p>昔は、九州の方まで看護師の採用PRをしに行ったと聞いている。</p> <p>身近な阪神間から、看護師を確保することは非常に難しいと考えている。</p> |
| 委員長 | 努力すれば、もちろん不可能ではないだろうが、実際、地域にいらっしゃる皆さん |

| | |
|------------|--|
| | <p>として、看護専門学校の評価を、今回の我々の評価に入れるがどうかについて、考えてほしい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>過疎地であれば、看護学校の必要性について理解できるが、阪神間ということで、今の事情を聞いていくと、今後の高齢化を見据えて終末期医療のニーズをどうするのかとか、保健医療1番の細施策では、介護予防の事業しかないので、例えば、在宅における終末期医療において、保健と福祉の連携上、看護師が不足しているから、市として看護専門学校が必要であるといった根本的なニーズが更に有れば、市民にとって必要性の実感を得られるのではないかと考える。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>医療と保健、福祉の連携が上手くいっているのかという話題は、次のテーマでと考えていた。</p> |
| <p>委員</p> | <p>病院のあり方、看護学校のあり方ということが議論になったので、一緒になってしまったが、その辺りのことも考えて、今の病院のあり方、看護学校のあり方を練り直す時期ではないかと思う。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>外部の施策評価をやっていて、宝塚市は、宝塚市でしかできないことを、必要性をぐっと絞ってやれという視点からでは、大変厳しいが、看護専門学校を市が直営としなくても問題ないのではないかということですが、副委員長はどう考えますか？</p> |
| <p>委員</p> | <p>看護師の確保という課題を阪神北圏域で考えるという問題意識はないのか。 1市でなんとかしようというのはわかるが、志望者が少なくなっている現状から、市立看護専門学校に入れば、市立病院に勤務しなければならないことが、かえってマイナスに働いているということはないのか。 先程の井上委員の意見に戻るが、例えば伊丹市と共同で看護学校を運営する等、広域的な視点に立って、看護学校を運営できないのか？ 1市で市立病院の看護師を確保するために看護学校を持っているということは財政的に苦しく、負担が大きいと感ずる。 また、看護学校の魅力をもっとアップさせて、志望者が多く集め、一部は市立病院に、後は大きく羽ばたいていけるようなことを阪神北圏域として考えることはできないのか？</p> |
| <p>委員</p> | <p>一部事務組合でのゴミ処理の考え方や、関西広域連合の考え方と同じだと考える。確かに、この問題については、広域的な視点も必要であると思う。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>一度立ち止まって考えるということを指摘することも一つの考え方であると思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>宝塚市民の目線で、市を良くしようという発想から見て、これは、評価すべきであると思う。実際に赤字の縮小に向けて努力していることは、評価すべきである。</p> |

| | |
|----------|--|
| 委員 | <p>私もその通りであると思う。</p> <p>実際に市民のために、お金を使って行っていることへの、積極的な説明は必要である。</p> |
| 委員長 | <p>皆さんの意見を受けて、実際に計画上も看護専門学校を市が持っていて、それを良い形で運営していくことで、定員も実状に合わせて工夫され、市の医療にも繋がっているということはよく理解できたが、もう少し視点を変えて考えてみると、看護師の確保を市立看護専門学校でやっていることについて、他に方法があるのではないかと、いうことを一度考え直してみる機会が有っても良いのではないかと、いうことを当委員会の指摘ということとする。</p> <p>但し、市が経験を積んだ看護師を養成して、医療を進めていること自体については、特に問題があるというわけではない。</p> <p>他の観点からはいかがですか？</p> <p>内田委員の意見にもあったが、保健医療と福祉が連携してということについて、具体的に何が連携しているのかが分かりにくかったが、その点について、もう少し教えてほしい。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>具体的な取り組みとして、予防接種関係であれば、市が医師会に委託し予防接種を行っていることが挙げられる。</p> <p>従前は、医療事務としてドクターに出務してもらい行なっていたが、日頃の診療の中で実施してもらっている。</p> <p>介護予防については、高齢者福祉の事業でもあり、医師会と連携しながら、取り組んでいるところであるが、様々な課題もある。</p> |
| 委員長 | <p>せっかくだからもう少し聞きたいが、連携していこうとすることに思いを持って、総合計画が作られているのだと思うが、それが文脈上、何を意図しているのか？できているのか？そうでないのか？ということを知りたい。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>福祉というよりも、医療と保健の連携では、健康という要素が強く、先程も言った通り、医師会との連携では、予防接種、健診というところになるのが実態である。</p> <p>連携が事務事業の中のどの事業という形には、なっていない。どちらかというとい介護予防関係の事業が挙がっており、それ以外は、疾病予防という観点で、健診事業を挙げている。</p> <p>介護予防について、医師会との連携は、なかなか難しいが、介護状態に陥らないようにするというのが主であるため、現時点で介護認定を持っていない方が対象となる。元気な方に一般的な介護予防として、食事等や、介護予防に係る講座などを行っており、医師に講師をお願いしている。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 健康長寿 推進室長 | <p>また、健診を通じて介護予防の対応が必要な方を把握するという国の定めた事業があり、医師会の協力の中で、要介護者の把握を行っているところである。</p> |
| 委員 長 | <p>内田委員も私も同趣旨から言っているのであるが、どこの自治体でも今、話された内容について苦勞されていると思うが、敢えて、総合計画で、保健医療と福祉を連携して取り組むということを明記している以上、何かもっとすごい取り組みがあるように感じるのだが、今言われたようなことを取り組んでいくということを総合計画に書かれているのか、更なる特段の取り組みを作っていこうとしているのか、どちらなのか？</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>がん検診、予防接種等は国の法律に基づき行政の義務として実施しているものであるが、実際、誰がするのかといえば、医師ということになる。</p> <p>行政が粛々と事業をしても、受診率、接種率が上がるものでもないことから、市民の健康を守っていこうとすれば、行政が積極的にPRして、受診してもらうように取り組むということになる。介護予防については、内田委員のお話された終末期医療の関係等について、総合計画策定時には、保健と医療と福祉の連携の中では、それ程、考えていなかったと思う。</p> <p>医療との連携で特別な取り組みをして行こうとすることを意図するものではない。介護予防の中でも一定、医師の判断が必要な部分もあるので、そうした連携を想定していると考えます。</p> |
| 委員 長 | <p>今のお話からは、今言われたようなことを着実に実施されているという評価でもいいし、もっと総合的にやりたいことが元々あるのであれば、そこをもっと頑張って取り組んでほしいという評価となる。</p> <p>担当としては、率直にどう考えているか。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>法律等により決められた事業が主であり、この施策の中で、総合的な保健医療と福祉の連携は考えていない。</p> |
| 病院経営統括 部室長 | <p>病院では退院患者が金銭的な問題を含め、次にどこで診療を受ければよいかなど色々な事情を抱えている。例えば、メディカルソーシャルワーカーを配置するなどして、患者が普通の日常生活を取り戻せるように市の福祉部門とも連携して対応しており、そういう意味で総合的な保健・医療サービスを提供している側面はある。</p> |
| 委員 長 | <p>市立病院の持っている特性を生かし、きめ細やかな、保健、医療、福祉の連携をお願いするという評価で纏めるということが良いか？</p> |
| 委 員 | <p>それで良いが、保健医療3で、市民千人当たりの医師数の指標があるが、データの記載はないが、これは、かかりつけ医についてもそうだが、どのようにして増やそうと考えているのか？また、阪神北子ども急病センターでは、平成23年度と24年度</p> |

| | |
|-----------|---|
| 健康推進課副課長 | <p>では、約千人の患者が減っているが、これはどういう理由があるのか？</p> <p>二つ目の阪神北子ども急病センターの患者が減った理由は、平成23年度にインフルエンザが大流行したことにより、全体として患者数が大幅に増加したことによるものであり、24年度は通常に戻ったということである。</p> |
| 病院経営統括部室長 | <p>市立病院は5年前には医師が71人しかいなくて、患者に対して医師の数が少ないということになっていたのであるが、救急医療、夜間医療を充実させるためには、医師の数を増やしていかなければならないということで、今現在は、110人に増えている状況であり、医師の数を増やして、医療の充実に努めているところである。どうやって医師を集めるかについては、大学等の関連病院に医師の派遣をお願いする等の努力を続けている状況である。</p> <p>市内全体でどのように医師を増やすかについては、県の施策が大きいのではと感じている。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>そもそも医師の確保というのは、県の仕事であり、圏域ごとに医療計画を県が策定しており、その中で医師の適正な人数を定めることになっている。</p> <p>そんな中で、阪神北圏域では、他の圏域と比較しても医師数が低い状況にあることから、医師数を増やす必要があるという状況である。</p> <p>指標として挙げているが、市の努力としては、市立病院の医師数を増やすこと等に限られており、医師数そのものを総合的に上げていくという手法を持ち合わせてはいない。</p> |
| 委員長 | <p>今、発言してもらいましたが、「市民千人当たりの医師数」、「市民千人当たりの病床数」は、救急医療の指標としては不適切だと考える。</p> <p>委員の皆さんには、宝塚市の救急医療の状況は、満足できる状況かということを知りたい。</p> |
| 各委員 | 意見なし |
| 委員長 | <p>この施策については、適切な評価をされている評価とする。</p> <p>次に、保健医療2については、特段の発言はありますか？先程、吉田委員からは、かかりつけ医の促進について、更なる取り組みを進めるべきとの意見があり、看護専門学校について触れることにしている。</p> |
| 各委員 | 意見なし |
| 委員長 | 意見がないようであるので、この3つの細施策についての議論は、ここまでとする。 |

| | |
|--|--|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】地域福祉</p> <p>【施策展開の方針】『1 すべての人がその人らしく住み慣れた地域の中で生き生きと暮らせるような地域社会づくりを目指します』</p> | |
| 委員 長 | <p>地域福祉については、どの市であっても同じであるが、社会福祉協議会に委託をして、事務事業を進めていく体制になっていると思うので、そのこと自体をいけないとかおかしいと思うわけではないが、この施策の大部分は委託のお金ということになっているため、社会福祉協議会がそれを受けてどのようなことをしているのかということとか、その成果がどうかということなのかが、システム上、分かりにくくなっている。市役所本体で行っていることについては、このような評価表を入れて評価しているが、委託金、負担金の類は、それを支出してどうなったのかということが、明確にされていないことが多い。委託や負担金についても、どのような目的で支出をして、何がどうなっているのかをこのように評価してもらいたいと思うが、どのように考えるか？</p> |
| 健康長 寿 推進室長 | <p>宝塚市の場合の社協の地域福祉については、委託ではなく、補助金を支出している状況である。社協の人件費相当分ということで、社協の人数分(22人分)の人件費相当額を補助金として支出している。</p> <p>地域福祉ということで、色々な生活課題を持っている方について、民生委員など地域の方と一緒にあって、その対応策を執っていくということで、これは社会福祉法の中でも、地域福祉については、社協が中核になって実践していくことが明記されており、行政は、その支援を行うという役割分担の中で、市が直接行うのではなく、社協の職員の人件費補助という形で地域福祉を行っている。市は社協の事業内容の報告を受けて、監査を行っている。</p> <p>もう一方で行政側の地域福祉を担っているものとして、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉があり、それらについても地域福祉を担う部分があり、これらについては、委託ということで社協と一緒にやっている。</p> <p>この委託部分については、社協の事務監査として、内容をチェックし、報告してもらっているが、それを市民に公表して見てもらうという仕組みには、現在のところなっていない。</p> |
| 委員 長 | <p>社協の事業内容について、もう一段の事務事業評価表を作ってもらえないかということをお聞きただけである。議会にしる、市民にしる、こうした施策評価システムを使って、施策全体の実状を知りたいということも当然であるし、市役所が1年に使える財源が本当にこれで良いのかということを考えていくわけなので、社協に助成してそれで終わりというのではなく、限られた行スペースではあるが、社協がどういうことをしているのかをこの評価表に落とし込めれば良いし、そうすることに何か障害がありますかという質問をしている。</p> |

| | |
|--------------|--|
| 健康長寿 推進室長 | <p>障害はないが、この限られたスペースの中で、どこまで書くのかというという問題がある。全ての事業において、社協独自で行っているものもあるが、市と一緒にやっている見守りや、権利擁護支援センターなどもあるので、その部分を記入することで、社協がやっていること表現する考えで、この評価表を記入している。</p> |
| 委員 長 | <p>この評価システムの狙い自体が予算をどの様に配分して、何をやって、どういう結果になっているのかを一覧できるようにすることを目指しているので、社協に助成していることで終わるのではなく、それでどうなったというところまであった方が、趣旨としては良いと思う。</p> <p>他市でも、補助金ばかりを洗い出して一連のシートにしているものがあつたが、それはそれで行革の効果はあるのかもしれないが、施策の全体像を掴むということでは、よくわからないので、この種の助成、委託については、お金を渡して、何をしているのかという、もう一段の結果まで、評価表に書くということが大事であると思う。</p> <p>他の視点で特に意見はあるか？</p> |
| 委 員 | <p>権利擁護事業について、具体的に社協がやっているのか、それとも市がやっているのか、具体のところの事業内容が見えてこないの、その辺りについて教えてほしい。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>高齢者・障がい者の権利擁護支援センターについては、目的としては、虐待であるとか、権利を満した対応がされていない事案について、法的な部分等の専門的な意見を聞きながら、対処してかなければならない。市の方にもケースワーカーがいるが、専門的な分野への対処は難しく大変な苦勞があり、時間もかかることから、そうした部分のバックアップ、また、成年後見も含めた総合的な相談窓口として設置している。</p> <p>高齢者については、地域包括支援センターもあるが、総合相談ということで、幅広い相談を受けることになり、複雑なケースで時間を要することになると他の業務をこなせなくなるので、そういった部分で専門的な分野を設けたというのが目的である。</p> <p>元々、社協は、権利擁護の業務を持っていたので、その延長線上で担っていただいている。また、宝塚には NPO の成年後見センターがあり、この二つの事業者に、委託をし、業務を行っていただき、紛争性の高い事案の相談業務を対応いただいているという状況である。</p> |
| 委 員 | <p>権利擁護については、総合計画では当事者自立支援というところが記入されており、高齢者、障がい者だけではなく、最近では生活困窮者、多事債務者等、様々な問題があると思うが、地域福祉はそういった部分も含まれると思うので、そういった事業や取り組みについても聞かせてほしい。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>当初、権利擁護支援センターの立ち上げの際に、人権等の権利は大変幅が広く、既に存在している DV のセンターとか、個々に持っている機能を集めることは、難しかったということもあり、高齢者、障がい者をメインにした経緯がある。</p> |

| | |
|----------|--|
| 委員 | <p>今後は、そうした問題に関連して地域福祉計画の見直し等もされるのか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>すべてを一つの機能にするのが良いのか、連携の中でも事業は実施していけると思うので、コミュニティも含め地域福祉が持っている様々な要素について、それぞれの隙間を埋めていくということが、地域福祉の一番のポイントと理解している。既にある窓口を一つにしたからといって、すべてが解決するとは考えていない。それぞれが繋がりをもって、対応することも大事であると思っているので、状況に応じて考えていくことは必要だが、現時点では見直しは考えていない。</p> |
| 委員長 | <p>指標について、「歩道段差改良箇所整備率」、「バリアフリーの市民の満足度」、「ノンステップバス導入率」等は、広い意味では地域福祉に関わるだろうが、ここに展開されている事業とはチグハグになっているので、なぜこのようなことになっているかと思うので、次の見直しの際には、事業に沿った指標に替えた方が良いと思う。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>言い訳がましいが、この細施策の取り組み項目の中にバリアフリーという言葉もあるので、そういう部分で、指摘された指標が入っている。地域福祉の要素は、ソフト面だけではなく、ハードの環境面でバリアフリーも要素となっている。</p> |
| 委員長 | <p>ストレートに言うと、例えば、この細施策を構成する重要な事業として、自殺予防があるが、「自殺者数」、「自殺率」というような指標がこの中にはないので、展開されている事業にリンクしている指標も必要である。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>事業については、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉について、それぞれが地域福祉の面も持っているので、行政の役割の事業として再掲で入れてしまうとすごい量になってしまう。本当に地域福祉のエキスを選りすぐったものと、福祉総務事業しか事業の組み立てが出来なかった。</p> |
| 委員長 | <p>整理としては、指標としてズレているものについては、例え指標の数が減ってしまったとしても整理した方が良いということにする。</p> <p>この細施策については、先程も言ったが、自殺予防ということも一つの柱となっているが、この点について意見や質問はあるか？</p> |
| 委員 | <p>自殺というのは、人数等について把握されているのか？</p> |
| 福祉推進室長 | <p>宝塚市でいうと、平成24年度の自殺者数は37名であり、だいたい年間30名～40名で推移しているというのが、実態である。</p> <p>男女の割合としては、男性の割合が6割、女性が4割であり、年齢層としては40代から60代の方が多く、原因としては、金銭問題というより、家庭問題、健康問題、精神的な問題が多くなっているという状況である。</p> |

| | |
|--------|--|
| 委員長 | 自殺予防対策の内、障害福祉課でされているものが、ここには記入されているのか？ |
| 福祉推進室長 | 主に障害福祉課が主管課となっているが、後、健康センターが所管している部分もあり、実際には、教育委員会、児童センター等の様々な部署が関連している。 |
| 委員長 | 素朴な疑問であるが、なぜ障害福祉課が主になって自殺予防対策をされているのか？ |
| 福祉推進室長 | たまたま、兵庫県の障害福祉課が所管されているので、市もそれに倣った形としている状況である。 |
| 委員長 | 母子福祉総務事業があるが、宝塚市の規模として教育訓練の寄付金を受けている者、高等技能訓練の促進等を受けている者の人数が少ないと思うが、これはどういう理由からか？一人親はもっとたくさんいると思うし、自立のためのプログラムもあると思うが、受けている人数が少ないと思う。 |
| 子ども室長 | <p>人数としては、提示している数字で推移しているが、ここ数年で減少しているのが実状である。</p> <p>市としては、周知不足があってはいけないので、機会ある毎に周知をしている状況であるが、特に高等技能においては、看護学校であるとか、医学療法の専門学校に通うためには、試験を受けて、入学ということになるので、母子家庭等において、なかなかそういった意識に繋がっていないように感じる。</p> <p>母子家庭は増加しているが、なかなか、この事業の利用に至らず、減少しており、担当としても、周知不足が原因であるのか見えにくいというのが、実状である。</p> |
| 委員長 | <p>他方で、端的にこの事業は必要ないと言われればどうか？</p> <p>利用がこれだけ少ないということであれば、必要性も失われてきていると感じる。</p> |
| 子ども室長 | 手に職をつけて、資格を取って生活基盤を築きたいという思いを持つ方もいるので、市としては、そういう方の支援をしていく必要があると考えており、利用の数ということではなく、制度として支えていかなければならないと考えている。 |
| 委員長 | <p>対象となる人数に対して、利用が少ないので、周知の問題なり、内容がニーズに即していなかったり、また、高度な訓練を受けるための入学試験に通らないということであれば、塾に行くのを助成するとか、もう一手打たないと、上手く機能していないように見えるので、何かしらの分析と、てこ入れが必要であると感じる。</p> <p>この施策展開の評価については、ここまでとする。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】地域福祉</p> <p>【施策展開の方針】『2 地域福祉の基盤となる福祉コミュニティ（ネットワーク）の形成を推進します』</p> | |
| 委員長 | <p>この施策展開方針については、再掲で事業が挙げられているのが大半であり、どちらかという福祉というキーワードの基に市役所の様々な部署、市内の様々な基盤が繋がって仕事をしているということで、どこか突出していたり、どこかボトルネックになっているところがないかということである。</p> <p>委員の皆さんの経験を踏まえた意見を願います。</p> |
| 委員 | <p>ここに書かれていることは、社会福祉協議会で検討されている結果であるが、進んでいるが順調ではないという評価は、私自身もその通りであると実感しているところである。例えば、「宅配事業と地域の見守りネットワークの充実を図った」が、その結果がどうであったかということが記入されていないので、評価自体は的を射たものであると考えており、今後、もっと真剣に取り組んでいかなければならないと考える。</p> |
| 委員長 | <p>その中で、どこが課題になっているのかを教えてください。</p> |
| 委員 | <p>宅配事業者には、コープ等も入っており、見守りをしていることは知っているが、内容の詳細については報告されていないので、よくわからない部分があり、その意味で、順調に進んでいるとは言えないと考える。</p> |
| 委員長 | <p>様々な取り組みをされているが、全体としてどのような取り組みをしているのか、特にどのような成果が挙げられているという情報がないと、次のステップに進めないのではないかと趣旨で良いか？</p> |
| 委員 | <p>それは、行政だけではなく、社協にも責任があると感じている。</p> |
| 委員長 | <p>こういった問題は、成果を捉えることが難しいしいのではあるが、どんな取り組みをしているのかということも、1つの情報であるので、情報を共有して、弱点となっている部分を見つけて、そこを1つ1つ解き解していくことが必要である。</p> |
| 委員 | <p>総合計画の取り組みの中で、「地域における市民活動団体、ボランティア、保健、医療、福祉、教育、行政関係者などの協働によるネットワークの形成」とあるが、教育についてコミュニティの取り組みとして何かあるのか？</p> |
| 委員長 | <p>福祉教育を各学校の施策の中にも取り入れているので、そこで上手く連携してやるというようなことが入っていると考える。教育基本計画の中にも、時代に即した教育を行うということがあり、理数教育、福祉教育が挙げられている。放っておくと、小学校でやっていたり、中学校でやっていたりすることが、一緒になり、理屈ばかりに</p> |

| | |
|-----------------|---|
| <p>委員</p> | <p>なってもいけないので、一緒にしたいという思いがある。</p> <p>それに関連して、児童館運営事業等も事務事業の中にあつたので、それも教育という意味合いで、ここに入っているのかと思ったが、どちらかという子育て支援の中身ではないのかと思ったので、発言した次第である。</p> |
| <p>子ども室長</p> | <p>地域福祉ネットワークの中に児童館が入っているということであるが、児童館は子どもの健全育成という大きな目的があるが、特に地域の中で配慮を要するお子さんや、見守り支援を行う必要のあるお子さんの家庭もたくさんあるという実状があるので、児童館の中で、相談業務を行い、行政を通して民生委員等に繋ぐことで、地域全体で見守っていくシステムを構築しようとしている。</p> <p>児童館は単に子どもの居場所であるとか、健全育成の場というだけではなく、地域福祉の中に位置付けられる事業であると認識している。</p> |
| <p>委員</p> | <p>パッと見ると、子育て支援の施策なのかと思ってしまって、地域福祉にある積極的な理由は何かということに素朴に疑問を感じたのであるが、宝塚では子どもを核にした地域福祉を進められているのか？</p> |
| <p>子ども室長</p> | <p>児童館や子どもを取り巻く福祉という観点ではあるが、子どもだけではなく、家庭全体の支援であるので、地域福祉という観点を含んでいると考える。</p> |
| <p>委員</p> | <p>前年度の総合評価では、福祉コミュニティの充実を図る必要があると書かれているが、前年度の総合評価の結果はどこに反映されているのか？</p> |
| <p>委員長</p> | <p>前年度と同じ総合評価を記入しているが、進展がなかったのかということをおられると思う。</p> |
| <p>健康長寿推進室長</p> | <p>数値的な実績をもう少し入れれば良かったが、進行状況の中に見守りネットワークとしての事業者は、平成23年度は32事業者だったものが平成24年度には169事業者となっており、状況としては進んではいるが、どこまでが最終目的かということがない中で、継続的に続けていかなければならない状況から総合評価としては、このような評価としたものである。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>総合的且つ戦略的な取り組みが可能になるといった場合（学校、若いも若きも、障害から健常も、地域から自治会からもやっていく）に、組織体制も大事であると思う。</p> <p>現行は健康長寿推進室でされていて苦勞をされていると思うが、色々なことをされている中で、この問題については、何年間に1回は立ち止まって、プロジェクト等の計画をして、組織体制も整えて、成果を見て、進めていくというようなことをしないと、なかなか実態を把握することが、かなわないと考えるので、連携をとって進めていくといっても難しいのではないかと感じる。</p> |

| | |
|--------------|--|
| 健康長寿 推進室長 | <p>ご指摘の通りであると思う。</p> <p>地域福祉の主管課のいきがい福祉課の業務の大半は、高齢者福祉であり、障害は、同じ健康福祉部の福祉推進室が、子どもは子ども未来部で部をまたがっており、地域福祉の主たる対象である、高齢、障害、子どもというところが、別々の部、室となっているので、いきがい福祉の中で、高齢を中心に業務を行い、地域福祉をやっていくのは難しい状況となっている。全庁的に教育も含め、庁内の推進検討会を設置しており、各課の課長級に入ってもらって進行管理を行うため、情報共有、進行上の課題を解決していく場を設けているところである。</p> |
| 委員 | <p>ここで言うのが良いのかわからないが、福祉の対象というのは、高齢者、障がい者、子どもであって、そこを自治会やまちづくり協議会がカバーするという話であったが、若者の貧困、子どもの貧困といったようなことも今日では問題であり、家族もなく隙間から抜け落ちているような、一人で宝塚市に暮らしている若者も福祉を受ける側になると考える。その部分について、宝塚市の全体の施策の中で置き去りにされているような気がしており、その部分をどこかでカバーする必要性を感じている。</p> <p>そういった若者が社会に出ていくための仕組みをどこかで考えたい。</p> |
| 委員長 | <p>大事な話ではあるが、この施策とは切り離れた議論としたい。</p> <p>事務局に聞いた方が良いのかもしれないが、今のような話の中身は、何の施策に該当することになるか？</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>中山委員の発言内容については、地域福祉の中にも要素があると思う。</p> <p>制度上、福祉で賄う部分を多く持っているケースであると思うが、ただ、複合ケースがあり、どうしても制度の狭間に落ち込んでしまうこともある。</p> <p>若者の就労関係、引きこもりの問題等、様々な問題が起こっているが、閉じこもってしまうと発見しづらくなるので、そういった意味での地域の見守りにより、早期発見、早期対応したいと考える。</p> <p>また、繋げていくということでは、地域福祉がスタートになると考える。</p> <p>制度の狭間として、福祉的な制度で対応できない場合は、どういった形でその人を支えていくのかということを経営、関係機関、事業所等とも考えていくのが、地域福祉であるので、就労という難しい部分もあるが、とっかかりの部分は、地域福祉であると思う。</p> |
| 委員長 | <p>先に私が整理したように、まさにそのような部分がネットワークに入っていると思うので、換言すれば、そこに入っていないから、重視せよと言われれば、違和感があるのではないか。</p> <p>そこにお互いの誤解はないと考える。</p> <p>他に若者関係で、福祉の施策に関するものはあるか？</p> |

| | |
|--------------------|--|
| <p>福祉推進 室長</p> | <p>若者対策事業となると、就労部門で若者対策の事業を行っている。 福祉の捉え方として、社会的困窮者、社会的孤立者というものを含めて、体系を組み直す必要があるのではないかと考える。 その中で、地域福祉として、行政施策をどのように組み立てて行くのかということ を考える必要があり、今の総合計画の中では、中々、そのような体系が見えてこない ということが現状である。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>委員にお尋ねするが、特記事項として、若者対策にも配慮する必要があると記入す ることで良いか？</p> |
| <p>委員</p> | <p>それで良い。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>それでは、事務局にお願いするが、地域福祉の中では、若者に関することが手薄で はないかという委員の指摘もあって、そこには一定の配慮が必要であると書いてほし い。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】地域福祉</p> <p>【施策展開の方針】『3 地域福祉を支える人や団体の育成・支援に努めます』</p> | |
| 委員 長 | <p>地域福祉の担い手やコーディネーターを育成するとあるが、具体的にどんなことをする人を育てて行こうということなのか教えてほしい。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>特別な役割を持っていただくというのではなく、地域の中に自治会の役員や、民生委員などが、それぞれ役割を持って地域活動をされている。これらの方は福祉面や、地域の環境面など、いろんな視点をもって活動されているが、同じ人が複数の役割を持っているというのが実状である。その方々が高齢化された時に、同じ役割を担える者がいるのかということになる。地域で活動される人材の育成について、地域と一緒に進める必要があり、それが担い手の育成であると考えている。</p> |
| 委員 長 | <p>地域のキーマン、キーパーソンという中心になって活動してもらっている人に地域福祉の内容や知っておいてほしいことを、知っていただいて、活動の中で生かしていただきたいということですね。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>コーディネーターは実際に繋いでいく役割をするため、より専門的な育成ということになる。</p> |
| 委員 長 | <p>コーディネーターは、どんな人が、どんなことをしているのか？</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>地域福祉で、地域の人が色々活動されているが、実際に繋いでいかないと、その場所だけで、解決できないことになるので、社会資源や様々な手法をもって、繋げていくことができるためには、経験や知識を有する人が必要であり、役割を持った専門的な人が必要と考える。</p> <p>また、そのような人を育成していかないと、地域福祉を広げること、実効性を持たせることは難しいとも考える。</p> |
| 委員 長 | <p>ある種のボランティアということか？</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>ボランティアというよりも、専門職的な部分を含めている。</p> |
| 委員 長 | <p>具体的にはどんな職業の人か？</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>コミュニティーワーカーであるとか、ソーシャルコミュニティーワーカーを考えている。また、お手伝いの方については、ボランティアと考えているので、すべての人を専門職でとは、考えていない。</p> |

| | |
|----------|---|
| 委員長 | <p>同じく施策展開の方針の中にある地域の生活課題に取り組む住民組織を立ち上げ、育成していくということについて、活動はどうか、実態がどうかということをもう少し詳しく教えてほしい。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>組織自体を何か新しく立ち上げるということではないと考えており、地域には既に自治会等の組織があることから、その中で活動をしてもらうという意味合いで、考えている。</p> |
| 委員長 | <p>実態としては、何もおかしいと思わないが、時々思うのだが、総合計画に書いてあることと違うというか、無理ということについて、何か一定の方針転換があったような理解でいいのか？総合計画を素直に読むと、新しい住民組織を立ち上げて、育てていくと書いてあるのに、それを違うと言われてしまうと、なぜ変わったのかということを開かざるを得ない。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>実際には、自治会というベースがあるので、そこで活動していただくのが主であると思っている。但し、自治会のない組織もあり、実際に動いた例としては、マンションの管理組合の中で、動いているケースがある、具体的には白瀬川地域の8つのマンションであるが、管理組合に集まっただいて、そのマンションの中の見守りの仕組みを社協と地域包括支援センター等が、出向いて説明する中で、組織として作っていただいたという経緯がある。</p> <p>自治会には自治会の役割としての見守りや活動があるが、必要に応じて、別のグループとして、出てくることも当然にあるので、既存組織だけではなく、進めていく場合も当然にある。そういうことを踏まえると育成の部分もゼロではないので、新たにつくりながら、進めていくということも考えられる。</p> |
| 委員長 | <p>これからの地方行政の進め方について、総合計画そのものも、10年スパンは長すぎると思うが、住民参加で合意形成をつくって、書いたことは実行することが求められるので、実状はそうなのかと言っても、そこには率直に違和感があると思うので、指摘はしておく。</p> |
| 委員 | <p>住民組織の立ち上げでイメージしたのは、コーディネーター等の人材育成を行いつつ、その人達が何かをやりたいと思った時に、それを上手くサポートして、その組織がどこにできるかは別だが、自治会や協議会と直結しなくても、応援できる制度ではないのか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>例えば、実際にサロンを立ち上げられる場合には、そのサロンを支援する制度は、現在も設けているし、そういった住民組織やグループを支援する体制は、今も作っている。</p> |

| | |
|----------|---|
| 委員 | 組織への支援内容は、どのようなことをするのか？ |
| 健康長寿推進室長 | <p>サロンであれば、週に1回の開催という形をとっており、備品の支援や部屋の使用料を助成していくことにしている。</p> <p>その助成は社協からスタートするが、3年間等の一定の期間が経過すれば、社協の助成がストップするので、その後は引き続き行政が支援するということで、財政的な支援を行っている。</p> |
| 委員 | <p>指標の推移のところで、「福祉系 NPO 法人数」があるが、これはどういうカウントをしているのか？宝塚 NPO センターと書いてあるが、この数値に違和感があって調べたところ、福祉系 NPO の団体は40団体程しかなかった。</p> <p>多分、定款上に福祉事業がある NPO の団体をすべてカウントしているのではないかと宝塚 NPO センターの定款にも福祉事業を入れているが、宝塚 NPO センターを福祉系 NPO 法人と見ている方は、ほとんどいないと思う。</p> <p>そこの数値は、きちんと把握しないとまずいと思う。</p> |
| 健康長寿推進室長 | 直接の所管が市民協働推進課であり、庁内照会をして、得た数値をそのまま入力していた。 |
| 委員 | このことから、定款のみから判断するのではなく、もう少し NPO の実態を見た上で判断する必要がある。 |
| 政策推進課長 | 市民協働推進課にも伝えた上で、数値の精査を行う。 |
| 委員長 | この細施策の中には、総合福祉センターの管理運営があるが、このことについて何か意見はないか？ |
| 各委員 | 意見なし |
| 委員長 | この施策についての議論は、これで良いか？ |
| 委員 | 少し話しは戻るが、担い手のところで、様々な担い手のお話をいただいたが、一方で、民生委員について、例えば他市であれば、地域福祉の中核をなす担い手は、民生委員であるのだが、宝塚市では、民生委員は担い手の一つであると認識されているようだが、そここのところはどのように考えられているのか教えてほしい。 |
| 健康長寿推進室長 | <p>民生委員は、地域福祉の担い手の中心的な役割を果たしていると考えている。</p> <p>民生委員については、別の細施策のところで、活動支援を挙げているため、担い手の中に当然含めてはいるが、このような書き方とした。</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>委員</p> | <p>担い手が少ないとか、全国的に高齢化が進んでいる中では、民生委員だけでは難しいという問題があると思うので、その当たりの対応はどうしているのか？</p> |
| <p>健康長寿 推進室長</p> | <p>担い手が重複していることが、一番の課題であると考えている。サポーター養成講座も実施しているが、講座にも同じような方が来られるので、関心の高い人は重複していると考えている。</p> <p>認知症サポート養成講座については、小学生に対しても養成講座を始め、5年生くらいの生徒を対象として、保護者や学校の先生も一緒に講座を受けることができるようにしている。この取り組みは昨年度の大きな取り組みとして挙げさせていただいた。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>それでは、この細施策の議論については、ここまでとする。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】健康</p> <p>【施策展開の方針】『1 市民の健康意識の向上と健康づくりを推進します』</p> | |
| 委員 長 | <p>市民一人一人が、健康になろうという意識を持って、実践していくが大事であるという施策であり、そういった中で、市としては医療費を抑制し、本人のためにもなるということであると思う。</p> <p>ご意見、ご質問をお願いします。</p> |
| 委員 長 | <p>ガン検診の受診率はどの程度あるのか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>ガン検診には種別があるが、総体的で良いか？</p> |
| 委員 長 | <p>総体的で良い。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>高い数値でいくと25～26%となる。高い検診の種別としては、肺ガン、大腸ガン、肝炎、前立腺ガンとなっている。</p> <p>低い検診は、子宮頸ガン、乳ガン検診で16～18%辺りであり、宝塚市の場合、県からも指摘されているが、胃ガンが5%と低い数値となっている。</p> |
| 委員 長 | <p>他市との比較でお聞きしたが、あまり変わらない結果だと思う。</p> |
| 委員 | <p>指標についてであるが、三大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管障害）について他都市と比較して宝塚市の特徴的な部分について教えてほしい。</p> <p>また、それに対して何か重点的なことを設定されているのかも教えてほしい。</p> |
| 健康推進課長 | <p>三大死因について、県平均と比較した場合に、三つともそれぞれ数値が低めであるという印象を持っている。ただ、全体的な死因と比較した場合、国、県と同様であるが、この三大死因が多くを占めているという状況である。</p> <p>最近では、高齢化に伴い、肺炎による死亡というのが多くなっている。</p> <p>上記を四大死因と呼んでいるが、他市と同様の傾向にあると考えている。</p> <p>宝塚市の死因の特徴ということであるが、特に目立つところでは、女性の心筋梗塞の指標が若干高いところであり、但し、何故高いのかという原因については、特定されていない。今のところ、重点的に打っているという施策はありません。</p> <p>心疾患については、循環器系の病気であるので、特定検診の受診率を上げていくこととか、喫煙、受動喫煙に対する対策も進めていきたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>「第2次健康たからづか21」を今後、作られるということであるが、国とか兵庫県で言っている「健康寿命」なども、今後、指標として設定した方が良いと考えるが</p> |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>どうか？</p> |
| <p>健康推進課長</p> | <p>委員の方から指摘のあった「健康寿命」については、国の方も算出基準を出して指標化しており、今回の「第2次健康たからづか21」の計画についても、指標値として設定したいと考えている。先日、兵庫県において、「健康寿命」の比較が公表されたが、それを見る限り、宝塚市は、非常に良いデータとなっていた。</p> <p>今後は、行政評価の指標としても検討していきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>ガンの検診に力を入れているということであるが、宝塚市立病院との連携はどのようになっているか？ガンの検診率を上げて、ガン患者が見つかった時に、宝塚市立病院において、ガンに対する何か特別な医療設備があったりするの？</p> <p>もし、ガンに対する何か特別な医療設備が無いのであれば、検診で見つかったガン患者は、どこかの大学病院のような所に行くことになるのか？</p> |
| <p>政策室長</p> | <p>市立病院の経営改革の一環で、ガン治療の充実をすることになっており、放射線治療について、高い設備を設置して、医療器具の充実を図って、ガン治療も従前より、高度な治療ができるように考えている。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>胃腸関係については、優秀なドクターも居られて、平成23年度からは、内視鏡センターも開設されています。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>この細施策自体は、各種の検診を着実に実行していくということであると思うが、他市でも同様の状況であると思うが、なるべく受診率を高めるということが、重要ということであるとする。</p> <p>あまり、経費の節減を図る余地もないように思うが、何か工夫等、考えておられることはあるか？例えば、予算をあまりかけずに受診率を向上させるようなことはないか？</p> |
| <p>健康長寿推進室長</p> | <p>特定検診については、受診率が低いということもあり、未受診者に対するアンケートを実施しているが、市民の思いは、普段から医療にかかっているの、必要がないとか、時間が無い、自覚症状がないという意見があった。</p> <p>多くは、健康の意識付けの問題だが、時間が無いという人については、休日検診を実施した。そうしたところ、5月～6月よりも10月～11月の方が受診しやすいという意見もあったので、今後は、そういった季節に検診が実施できるように取り組んで行きたいし、市民の声を聞きながら、検診も工夫をしていきたい。</p> <p>啓発については、公用車に受診勧奨を付けて走ることでPRする外、チラシ等による勧奨で、経費をあまりかけないように努めていく。</p> |
| <p>委員</p> | <p>今、市民の健康意識はすごく高まっている。</p> <p>スポーツを頑張らせてされたり、外を出歩かれたり、そういう色々なことが市民の意</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>識としてあるけれども、そういったことを複合的にするというよりも、健康は健康で啓発を粛々とするというのではなく、健康の啓発に関わるような、例えばスポーツセンターの事業のようなものと一体となっているよう形での啓発というのはできないか？</p> <p>市民の意向は、かなりの健康志向であるので、そういったことに乗っていくということではできないか、既にある事業に対して、健康という側面でお金をかけることは、できないか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>お話されたように、健康という意識は、市民の間で高まっていると思う。</p> <p>様々なことに取り組まれているグループとか、地域があることは認識している。</p> <p>しかし、早期発見のための検診を受けることについては、時間が無いのか、意識の低さが原因なのか分からないが、受診率の向上に繋がっていないということである。</p> <p>定期的な検診を受けてもらうために、必要性に目を向けてもらうよう、地域に出向いて、健康教育をやっているが、その中では、運動、食事等の日頃の健康に気をつけてもらうことと一緒に検診の大切さを啓発させていただいている。</p> |
| 委員 | <p>スポーツセンターのインストラクターに話しをしてもらえれば、市役所から言われてピンと来ない人でも、インストラクターから言われれば、検診を受診するような人もいるのではないかとということで、切り口を変えてみるということで話をした。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>各市とも、企業とタイアップする等、様々な取り組みをされていると思うが、なかなか踏み込めていない所もあると思うので、課題ということは認識している。</p> |
| 委員長 | <p>マンネリ化しないような工夫を今後もお願いしたいということであると思う。</p> |
| 委員 | <p>結局、私もそうだが、自身で健康管理をしなければならぬというのが本音であると思う。市民の自主性に任せないとどこまで行っても、限界があると思う。</p> <p>行政がすることは、そのための周知徹底をすることだけと思う。</p> |
| 委員長 | <p>この施策展開の議論については、ここまでとする。</p> |

| | |
|---|--|
| 【基本目標】健康・福祉 | |
| 【施策】健康 | |
| 【施策展開の方針】『2 地域での心と体の健康づくり活動や高齢者の介護予防活動を支援します』 | |
| 委員長 | この施策展開の方針については、予防ということで、介護保険なんかの負担を減らすことに繋がっていくと思うが、素直にこの施策について読んだら、もっと民間でやろうということを見つけてきたり、その気にさせたりすることに繋がっていくように思える。市民協働に繋がるのかもしれないが、グループとして自立できるようにしたり、金銭的なサポートも考えられるのかもしれないが、具体的にはどのように考えるか？ |
| 健康長寿推進室長 | <p>実際の取り組み内容でも説明を書かせてもらっているが、地域での健康の取り組みは、自治会や、老人クラブ、サロンで行なわれているが、そこでは運動指導員や、保健師、管理栄養士、歯科衛生士などが、地域に行ってお話をさせていただく中で、健康に対する意識を持っていただくため、一定時間の中で色々な組み合わせの健康教育を行っている。民間でやってもらうのではなく、高齢の部分で言えば地域包括が、健康部門から言えば、健康センターの専門職が行っている。</p> <p>継続性が大事であるので、高齢については、介護予防サポーター養成を始めて、継続性を保てるように取り組んでいる。</p> |
| 委員長 | <p>評価及び進行状況に記入いただいていることを紹介してもらったと思う。</p> <p>そういう活動は大事であると思うので、メニューとして市はどのようなことを提供できるのかをホームページで公開するなど、纏めて公開できるようにしておくと思う。</p> |
| 委員 | <p>事務事業で特定高齢者把握事業があるが、この事業は総合評価のところの生活機能評価検診により把握された介護予防になる前の元気でない高齢者について把握をし、プログラムを提供する事業であると思う。</p> <p>これは国が言っているので、やっておられると思うが、どこの自治体でもそうであるが、把握はするけれども、事業としての効果はどうかと思う。</p> <p>実際に16人程度しか把握していないわけで、宝塚市として今後、この事業をどんな形で進めていくのか、介護保険は来年に改正が予定されているので、変わる可能性も高いが、考え方について聞かせてほしい。</p> |
| 健康長寿推進室長 | 書き方がまずかったと思うが、特定検診と同時に実施した生活機能評価の数が、約12,000人と記入している。最終的に特定高齢者として把握した人数のうち、実際のプログラムの参加者数でいうと、207名であり、市の全人口比からいくと0.5%程度になると思う。先程の16人と言うのは、社会保険に加入されている方については、チェックリストの郵送で実施しているため、これから把握された方が16人ということになっている。 |

| | |
|--------------|--|
| 健康長寿 推進室長 | <p>少ないことには変わりがないが、国の方でも事務の見直しを言われており、現行ではどこの市も効果がない状況である。宝塚市は県下でもトップクラスの状況であるといながらも、数値は低いので、平成25年度から見直しをかけ、健診自体は必要なく、チェックリストを全対象者に送付して、そこから把握していこうと考えており、経費は落としている状況である。</p> <p>チェックリストを返信してもらえ方は、健康意識があり、チェックリストを返信してもらえない方こそ、何らかの問題がある方であると考えている。</p> <p>また、平成25年度は、チェックリスト以外に、別の質問項目を入れており、本当に支援が必要な人をターゲットにしていこうと取り組んでいる。</p> <p>そして、地域包括支援センターの職員に対象者を訪問してもらう体制をつくり、介護予防の必要な人の掘り起こしを行おうとしている。</p> <p>このような施策に替えていっている状況である。</p> |
| 委員 | <p>問題点を踏まえて、今後の取り組みとして進めていこうとしていることは、分かりました。</p> <p>地域包括支援センターの職員を地域に回らせるのに、どんな人がターゲットとなっていくのか？全然サービスを利用されていない人か？</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>サービスを利用されていない方で、地域包括支援センターに相談がない方、チェックリストの内容がいろんな項目で問題がある方、そして特に体力とか運動能力に問題があるだけではなく、鬱とか認知症に該当しそうな方について、包括は動けるように本来の生活機能評価とは異なった視点も施策に取り入れている。</p> |
| 委員長 | <p>通所型介護事業について、もう少し掘り下げたいが、口腔機能向上は72回、栄養改善は33回の実施ということで、少ないように感じるが、これはなぜ少ない数になっているのか？打つ手の余地はあるのか？この辺りの実状の分析はどう考えているか。</p> |
| 健康推進課長 | <p>確かに口腔機能向上、栄養改善については、なかなか呼びかけをさせていただいても、まだ私はいいいですとのお断りが有ったり、一度受講された方が前にも行ったので、いいですと断られるケースが有って、お誘いすれども、来られることに結びつかないところがある。</p> <p>お越しいただいた方が歯科衛生士なり、栄養士なりにお話を聞いてくださったり、実際に体験をされると、来て良かったという評価はいただいている状況ではある。</p> <p>足を運んで聞いていただくということになかなかならない状況ではある。</p> |
| 委員長 | <p>こういったことをするのに事業費はかかっているのか？</p> |
| 健康推進課長 | <p>それぞれ雇い上げの歯科衛生士、栄養士であるので、そういった意味での事業費はかかっている状況である。会場費がかかっている場合もある。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <p>一度やったことを止めるというのは必要性があるということであるが、如何にも手間をかけて、仕事をされている割には参加者が少なすぎるのではないと正直言わざるを得ない。このままでは、費用対効果は悪いと言わざるを得ないと思う。</p> <p>それでは、この施策の議論については、ここまでとする。</p> |
|-----|---|

| | |
|---|--|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】健康</p> <p>【施策展開の方針】『3 安心して安全に子どもを産みそだてることができるよう母子保健事業をはじめとする支援体制の充実に努めます』</p> | |
| 委員 | <p>指標で乳幼児健診受診率(3歳児)で92.6%と高い数値になっているが、但し、約8%の人が来ていないということは、児童虐待に発展したり、状況を把握できない人がいるのではと懸念する。その辺り民生委員の家庭訪問もあるが、児童虐待に向けた取り組み、未受診者の家庭への訪問等の対策について状況を教えてほしい。</p> |
| 健康推進課長 | <p>健診の受診率については9割を超えているが、委員の指摘の通り、乳幼児健診で重要なことは、来られなかった人の状況をきちんと把握することである。</p> <p>特に、虐待で亡くなった方の全国的な死亡事例で言うと、0歳児の死亡事例が非常に多い状況であり、生まれてから4ヵ月までの母子の状況を全数把握する必要があるということで、乳児健診は4ヵ月健診からスタートすることになっているが、母子保健相談支援事業としては、妊娠届のところからスタートしており、生まれてからは、訪問指導であるとか、そこから一連の流れの中で母子の関係が診ていけるように取り組んでいる。</p> <p>未受診の対応については、来られなかった方について、もう一度手紙による再勧奨を行い、来られない方については、手紙で健康状態であるとか、悩み事であるとかを答えてもらうアンケート調査を実施している。それでも返信のない方については、保健師の訪問であったり、地域の民生委員にお願いして、訪問していただく等の対応をしている。</p> <p>(4ヵ月、1歳6か月、3歳)の三回の健診のどれにも目通しできない方がいないように、状況のチェックをするようにしている。</p> |
| 委員 | <p>具体的な事業としては、この母子保健訪問事業の一環として、未受診者の把握を行っているということか？</p> |
| 健康推進課長 | <p>その通りである。</p> |
| 委員長 | <p>市役所以外にもこのようなサービスをされている所は多いと思うが、そうした所の情報を一カ所に纏めて提供するとか、健診の場にそうしたサークルとかNPOの人に来てもらって、纏めて説明してもらうとか、ようは、行政がやっていることに合う人もいれば、他の選択肢の方がいいと考える人もいるので、情報を集約して伝えれば良いと思うが、そんな工夫をされたり、今言ったアイデアでできそうなことはあるか？</p> |
| 健康推進課長 | <p>乳幼児健診の中では、スタッフもたくさんいることから、なかなかコーナーを設けるということは、難しいところもあるが、情報提供するということで、市内のNPO法人の行っていることとか、情報コーナーを設置してチラシを配置するようなことは、実施している。</p> |

| | |
|--------|---|
| 健康推進課長 | <p>また、こども未来部の担当にはなるが、フレミラという大型児童館が中心になって、色々な子育て支援の事業を実施し、情報をもっているので、そちらを紹介するようなことも行っている。</p> |
| 委員長 | <p>子育てしているような人は余裕がないと思うので、効果的に情報を送ることが大事であると考えます。</p> |
| 委員 | <p>山本山手の児童館・子ども館は、午前中は未就学児童がたくさん来られる。7月だけの数値を取っても、1,402人も来られている。</p> <p>その内、午前中に来られているのは半数近い数であり、必ず母親が一緒である。</p> <p>そういう場を利用して、今まで、赤ちゃん教室等に利用しているが、ここでは、先程の話に有ったような情報等のPRのようなことはされていないのではないかと？</p> <p>これをもっと積極的にやれば、各児童館も協力すると思うので、積極的に利用してほしい。</p> |
| 委員長 | <p>健診は一大イベントであるので、準備が大変であると思うが、せっかくの機会であるので、子育て情報等を上手く集約して、フレッシュで正確な情報を伝える機会としてもらいたい。</p> <p>この施策の中に市立保育実施事業があるが、施策展開の方針として何か意見はないか？</p> |
| 各委員 | <p>意見なし</p> |
| 委員長 | <p>今、幼稚園と小学校の接続事業として、就学前の幼稚園児の小学校訪問がされており、保育園の方でも可能な範囲でされているようであるが、幼稚園よりも保育所に通う子どもが多いので、保育所から小学校への連携教育のようなことにも力を入れて是非取り組んでももらいたい。</p> <p>この施策展開の方針については、ここまでとする。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】健康</p> <p>【施策展開の方針】『4 市北部地域の豊かな自然など、市の特色を生かした食育を推進します』</p> | |
| 委員 長 | <p>食育フェア、食育講座は一体どういうものであるのか、どこでやっていて、どんな人がどれくらい参加しているのか？そこではどんなものを食べさせていて、何を目標しているのか？正直よく分からないので、まず、その補足からお願いしたい。</p> <p>食育を推進していくというのは、内部の関係部署で検討会を設け、そこがコーディネート機関となっているという理解でよいか？</p> <p>また、食育というと青少年関係を思い浮かべるが、大人も視野に入っているということですね。</p> |
| 健康推進課長 | <p>食育フェアは今回で3回目ということになるが、今回の実施内容について説明すると、大きくは、学校給食の試食とフードマイレージの講演会の開催である。</p> <p>小さい催しとしては、子どもたちが、自分たちのお箸を製作するイベントであるとか、食べることは歯が大事であるので、かむかむチェックということで、歯茎の健康度をチェックしたり、パネル展示をしたり、楽しみながら食育を理解できるような取り組みを実施するイベントであり、行政の関係各課が、連携して取り組んでいる。</p> |
| 委員 長 | <p>引き続き、食育講座についてお願いします。</p> |
| 健康推進副課長 | <p>食育講座は健康推進課で行っている事業であって、地域で食育を推進するという意図をもって実施している。例えば、地域のスポーツクラブ21を対象にしたものであったり、あるいは、中学生、高校生の受講生を対象に、地域に出向いて、講師をよんで、食育の栄養に関する講義を行っている。また、地域からの依頼に合わせて、食育に関する調理実習等も行っており、それらを食育講座としている。</p> |
| 委員 長 | <p>評価システムに食育を載せて行く中で、総合計画も一定の期間が有り、食育計画もロングスパンでされているので、評価している年度で、今どこに重点を置いていて、どこまでできているのか、計画年度までに目指したところまで、行けそうなのか等、分かるように書いてほしい。そうでないと毎年の評価が同様の内容になってしまう。</p> <p>計画はまだ、途中であると思うが、計画を進めてきて、見えてきた課題や成果などはあるか？</p> |
| 健康推進課長 | <p>この計画については、平成23年度～27年度までの計画となっている。この計画の主な狙いは、次世代の子どもたちに対して、正しい食習慣を伝えていきたいということである。それは、今の子どもたちも対象であるし、今の大人である人が、率先して、良い食習慣を身に付けて、子どもたちに伝えて行くという意味合いもあり、子どもから大人までが対象となっている計画である。</p> <p>子どもたちが、この食育推進計画で狙っていることをしっかりと理解してくれているか、しっかりとPRができているかということ、学校現場の中で、色々な食育活動を盛</p> |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>んにされているが、もう一步何かPRができないかというところで、事務局である健康推進課では、子ども向けの食育推進計画のリーフレットを今年度作成することになっている。</p> <p>取り組みの中で今、感じていることは、市の各課の中で、それぞれ食育の取り組みをしているといことは、庁内連絡会の中では分かっているのだが、民間等一步外に出て、様々な食育に取り組まれている団体、個人の情報について、しっかりと行政として把握し、情報発信を市民に対してしていくということが必要ではないかと感じており、その前段として、食育に取り組まれている団体、個人に集まっていただいて、情報交換会の開催を計画しているところである。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>食育基本計画の柱として、大きくは、子どもの頃から食との触れ合いを増やしていこうということであり、食生活の知恵や経験を伝えていこうということと、食で守ろう自然の恵みということが言われていて、6つの取り組みの柱があり、「家庭における」、「保育所・学校園における」、「地域における食育の伝統料理の継承」、「業者における食育推進」、「安全・安心食育の推進」、「環境を意識した食育の推進」が挙げられている。こういった計画の進行管理が評価表の中で出せるようにしていただかないと、出てくる情報が全部アウトプットレベルとなっており、成果が把握しにくくなっている。目標も高いところにあるので、取り組みとして進んでないのではないかというような疑問を持ってしまうことになり、一段の取り組みが必要ではないかと思ってしまうことになる。</p> |
| <p>委員</p> | <p>市民との役割分担の妥当性のところで、「関係各課が共同で開催する食育フェア」についての関係各課とは、何課か？</p> <p>「食に係る事務を所管する部署」というのは、どういう部署が関連しているのか？</p> |
| <p>健康推進課長</p> | <p>食育を進めるに当たって、庁内で食育推進検討会を持っている。</p> <p>検討会の構成課が関係課、所管部署ということになるが、具体的に言うと「健康推進課、子ども家庭支援センター、保育課、環境政策課、商工勤労課、消費生活センター、農政課、教育委員会の学事課、学校教育課、社会教育課、中央公民館」といったところが、食育の事業を持っている課となり、進行管理を行っている。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>検討会は何回くらい開催しているのか？</p> |
| <p>健康推進副課長</p> | <p>年2回開催することとしている。</p> <p>検討会が中心となって、食育フェアを開催している。</p> |
| <p>健康長寿推進室長</p> | <p>食育の「育」とは、文字通り教育であり、各課が持っている事業、例えば公民館での料理教室は、公民館事業となるが、調理を通じて食に関することを学ぶ場となっている。</p> <p>食育という計画を持って実施していくということで、付随する78事業について、</p> |

| | |
|----------|---|
| | <p>食育という理念に基づき、個々の事業にも取り組んでもらうことにしており、各課において、食育という観点で、共通の認識を持って、工夫して進めていこうという意見も貰っている。</p> |
| 委員 | <p>今、答えてもらった各課はたくさんあるけども、これは「食に係る事務を所管する部署」とリンクしているのか？</p> |
| 委員長 | <p>ほぼ、一緒と理解してください。 宝塚市の場合、個別の計画を市民参加で作られているということは、素晴らしいと思うが、計画を作って終わりになってはいけないと思うので、進行管理を適切にやってほしいと思う。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>市民の方の意見ということでは、庁内検討会だけではなく、食育推進会議を設けており、市民公募の委員、自治会連合会の委員、商工会議所、PTA、農業協同組合、NPOの色々な団体、個人に入ってもらって、様々な観点から意見をいただき、そして、先程述べたようなネットワークを作って食育を進めていこうとしている。</p> |
| 委員 | <p>食育に関する事業が78事業もあるとのことだが、これには先程言われたたくさんの課が関係しているわけであるが、かぶっているような事業はないのか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>各課が食に関する事業として、携わっているものであり、食に携わる中で、計画における食育の考え方をしっかりと持って、取り組んでもらっており、かぶるという形はありません。</p> |
| 委員 | <p>むしろ、整理統合するようなことはできないのか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>事業は食育のためだけにしている事業ではなく、他の目的も持っている事業であるので、食育のためだけにしている事業ではないということをご理解いただきたい。</p> |
| 委員 | <p>この78事業というのは、前年度と比較して、増えているのか、それとも減っているのか？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>24年度は78事業で、今年度は81事業ということで、若干増えている。</p> |
| 委員 | <p>事業が増えた理由は何故か？</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>新たな取り組みとして、食育に取り組まれている団体、個人と情報交換するような事業や、子ども版の食育推進計画のリーフレットを作成する事業を追加している。</p> |

| | |
|--------------|--|
| 委員 | 毎年、事業が増えていくと、人もいるのではないか？ |
| 健康長寿 推進室長 | 食育のためだけに、人を増やすといことはなく、一連の事業の中で取り組んでいるものである。 |
| 委員長 | 交通整理をすると、室長がお話されているのは、いろんな事業で食育の要素を持っているもの、食育に入りうるものについては、食育の意識を持ってもらい、食育に付随する事業として入れていっているということであり、事業が増えることで、必ずしもスタッフが増え、予算が増えるということには、必ずしもならないということだと思ふ。 |
| 委員 | そのようにあってもらいたい。 |
| 委員長 | 食育基本計画の中には、分野別の取り組みについても詳細に書かれているので、また、見ていただくなどしていただきたい。 これで、健康に関する4つの細施策の評価を終えることにする。 |

| | |
|--|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】高齢者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『1 住みなれた地域で暮らし続けられる生活支援体制を構築します』</p> | |
| 委員 | 宝塚市は介護保険について施設運用が多いのか在宅サービスが多いのかどちらか。特別養護老人ホームが多いのか老人保健施設が多いのか。そういった偏りに問題があるのかどうかをお聞かせいただきたい。 |
| 介護保険課副課長 | 費用でいうと、在宅が6割、施設が4割といった割合である。特別養護老人ホームを多く建設することは出来ないため、在宅が多くなっている。 |
| 委員 | 介護保険料は近隣と比較して高いのか。 |
| 介護保険課副課長 | 国平均と比べると、本市は4,867円と低くなっている。 |
| 委員 | 比較的、施設は少なく、在宅サービスを重視しており、保険料は低いということである。その中で、地域密着型介護サービスや24時間訪問巡回といった新しいサービスを宝塚市独自でなされているか。 |
| 介護保険課副課長 | これからは地域包括ケアとして、地域密着型介護サービスを重視しなければならない。地域密着型介護サービスの中で、本市は小規模多機能型居宅介護を重点的に実施したいと考えている。定期巡回については2つ計画があり、1つは現在建設中である。 |
| 委員 | 定期巡回は大都市向けのサービスではなかったのか。近隣都市と連携してといった考えは無いのか。 |
| 介護保険課副課長 | 兵庫県下では相生市のみである。地域密着ケアのためには医療的な面からも定期巡回が必要であり、充実させたいと考えている。 |
| 委員長 | 生活支援ハウス運営事業について、どういった必要性から実施されているのか。 |
| 健康長寿推進室 | 経済的な理由や家族からの支援が受けられない高齢者は本来、養護老人ホームに入所いただくが、そういった要件に該当しない方に対して10人入居できる部屋を設けて、安心、安定的に生活をいただいている。現在5,6の方が生活されている。介護が必要となったり、要件に合わなくなった場合は出ていってもらう必要がある。事業費の大半は施設運営に関わる委託料である。 |
| 委員 | NPOでこういった事業をされているのは知っていたが、市が実施しているというのは初めて知った。 |
| 委員長 | 対象の方は多くいると思うが、特定の方に留まり、もっと周知が必要ではないか。 |

| | |
|--------------|---|
| 健康長寿 推進室長 | <p>養護老人ホームについても、該当者がおられても定員一杯にはなっていないのが現状である。相談を受ける中では、一時避難的に入っていただかなければ生活が成り立たないケースも多々ある。福祉施策にとって必要な施設であり、運用を行っている。</p> |
| 委員 | <p>地域自立生活支援事業と市特別給付事業は利用者の安否確認や食事の提供といった中身で似通っている。</p> |
| 介護保険課副 課長 | <p>介護認定を受けているか受けていないかの違いである。サービスを提供する事業者も同じである。</p> |
| 委員 | <p>地域自立生活支援事業は対象人数に対して費用が多額であるが、その理由は。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>2つの事業内容を含んでいる。1つは見守りつきの高齢者住宅の運営であり、139戸の生活支援に関わる費用である。もう1つは配食サービスとして34人に実施しており、その両方での事業費である。見守りつき高齢者住宅の事業と配食サービスの事業は別々に行なっている。</p> |
| 委員長 | <p>宝塚市にはサポートが必要な高齢者がいるにも関わらず、サービスを必要としない方が入居されているのであれば、うまくマッチングする工夫はないのか。ミスマッチの分が無駄になっている。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>この条件だけで入居をコントロールすることは出来ていない。</p> |
| 委員 | <p>県営住宅3箇所については、兵庫県と協議して募集要件にサービス希望者を加えることはできないのか。市営住宅についても同じようにできないのか。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>その要件の方のみ優先的にというのは難しいと考えている。</p> |
| 委員長 | <p>見守りつきの高齢者住宅には希望する方のみを入居させ、それが無理なのであれば、追加的なサービスは無駄であり無くした方がよい。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>兵庫県との協議では、そういったサービスを前面に出して希望者を優先させるのは難しいとのことであった。市営住宅については内部で調整は可能である。</p> |
| 委員長 | <p>介護認定事業について、平均40日ほどかかるというのは他市と比べてどうなのか。短くするような手立てはあるのか。</p> |

| | |
|--------|--|
| 介護保険課長 | <p>他市と比べて長い方であるが、認定の件数も増加しており、他市でも30日から40日といった状況である。現在、システムや手続きを工夫するなど、平均42日から35.2日に短縮できてきている。</p> |
| 委員長 | <p>退院してすぐに介護認定を必要とされる方にとって40日というのは長いと考えられるが、対応策はあるのか。</p> |
| 介護保険課長 | <p>国からはがん罹患の方については早急に、病状が急変するなど即座に介護サービスを必要とされる方には申請した日にちから即座に利用できるよう配慮する旨の通達が出ている。審査結果は後になるが、その日から利用できることを説明している。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】高齢者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『2 高齢者を支える地域ネットワークづくり(地域ケア体制の確立)を図ります』</p> | |
| 委員 長 | <p>高齢者の見守りネットワークは具体的にどう運用されているのか。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>従来から民生委員については報告いただくようお願いしており、配食サービスについては取りに出てこれなければ市に連絡いただくようお願いしている。事業者については生活協同組合、新聞配達、郵便事業者などに様子がおかしいと感じたら地域包括支援センターに連絡するようお願いしており、成果も出ている。</p> |
| 委 員 | <p>高齢者に配られている高齢者安心キットについては成果が上がっているのか。</p> |
| 健康長寿 推進室長 | <p>高齢者安心キットとは、75歳以上の1人暮らしの高齢者で希望する方にお配りしており、連絡先、かかりつけ医等の情報を入れたキットを冷蔵庫に入れておいていただくものである。平成24年度末でこれまでに約5,500個を配布している。成果としては消防の救急隊や民生委員、警察が駆け付けた時にその方の情報が把握でき、役立っているといったものである。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】高齢者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『3 自分らしくいきいきと暮らせるよう高齢者の生きがいを推進します』</p> | |
| 委員 長 | <p>生きがいをづくりのための施策においてバス運賃助成というのは目的と手段といった意味からは違う気がする。社会参加においては効果的であるが。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>高齢者の社会参加を重点目標としており、バス運賃助成によって外に出る、移動することが大切だと考えている。生きがいをづくりに参加いただくための移動に支援している。</p> |
| 委員 長 | <p>老人福祉総務事業で、市長が訪問して祝福するというのも生きがいをづくりとは違うのではないか。別の施策に位置付けてもいいのではないか。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>高齢者の喜び、生きがいにつながるものとしてこの施策に位置付けている。</p> |
| 委員 長 | <p>高齢者の生きがいをづくり支援というと、同世代の人を集めて同好会となりがちであるが、他にはないのか。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>老人クラブの数や加入者数がどんどん減ってきている。60歳から参加できるが、まだ現役であったり多趣味をお持ちであったりして、入らない方も多い。しかし、地域に密着した老人クラブにおいて顔をつないでおかないと、閉じこもりになってしまうことも懸念されるので、老人クラブの支援はしていきたい。老人福祉センターにおいては子どもとの交流など世代間交流を図っている。</p> |
| 委員 長 | <p>高齢者向けに老人クラブの案内や生きがいをづくりのサポートを支援するような案内はされているのか。</p> |
| 健康長寿推進室長 | <p>高齢者が利用できるサービスについては、いき生きがいドブックというパンフレットを作成して周知を図っている。地域包括支援センターにはパンフレットを置くなど工夫している。</p> |
| 委員 長 | <p>市の審議会などに傍聴や参加する方や、地域で経験を積まれる方、趣味に走られる方と色々なパターンの方がいらっしゃるの、そういった案内ができれば生きがいをづくりが推進できるのではないか。</p> |
| 委員 | <p>NPOセンターではシニア大学を開校し、40名の方が新たな出会いでつながりを持たれた。そういったことを柔軟に取り入れた生きがいをづくりもよいのではないか。</p> |

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 健康長寿 推進室長 | 元気に地域でご活躍いただくことが大事であり、これからも取り組んでいきたい。 |
|--------------|---------------------------------------|

| | |
|---|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】障がい者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『1 障がいのある人の自立生活を確立するため、地域ケア体制や障がい福祉サービスなどの充実に努めます』</p> | |
| 委員長 | 他市と比べて、宝塚市ならではの特色といったものはあるのか。 |
| 福祉推進室長 | 阪神間は都市部であり事業者も多く、そういった意味では多くのサービスを供給できているのではないかと。宝塚市はサービスの供給量に制限を設けておらず、年間10%程度の伸びで利用量が増えてきている。 |
| 委員 | 障害者福祉におけるケアマネジメントの仕組みはどの程度進んでいるのか。 |
| 福祉推進室長 | 介護プランのようなサービス利用計画づくりを昨年からはスタートさせているが、計画作りを担う事業者が少ない。よりきめ細かく家族の状況や本人の要望を聞く中で市がチェックを行い、障害者施策だけでなく高齢者施策、生活保障施策といった複合的、予防的観点から対応していきたい。 |
| 委員長 | 障害者（児）歯科診療事業は他市では少ないのではないかと。利用者は多いのか。 |
| 健康長寿推進室長 | 開設日数は100日、受診者数は853人である。障がいをお持ちの方の治療は特別であり、専門的な知識が必要となる。 |
| 委員長 | 診療所を設けて直接実施するよりは、ご協力いただける歯科医に委託した方が安くできるのではないかと。 |
| 健康長寿推進室長 | 専門的な対応が必要な上、お1人にかかる診療時間も長くなるので、一般の受診者と診療を行なうのは、負担を感じる歯科医も多いのではないかと。歯科医師会からは応援として派遣をいただいている。 |
| 委員長 | 自治体の規模からすると、約800人の利用というのは多い気がする。専門的な歯科医でないと診ることができない患者はもっと少ないのではないかと。他市ではあまり実施されていない。 |
| 健康長寿推進室長 | 軽度、重度の障がいの区分までは分析できていないが、全ての障がいをお持ちの方が来られている訳ではない。 |
| 委員 | 障害者ホームヘルプサービス事業は事務事業評価で廃止となっているが、この意味は。 |

| | |
|--------------------|---|
| <p>福祉推進 室長</p> | <p>これまで難病をお持ちの方に対するサービスとして健康推進課が実施してきたものが、今年度から障害福祉課の事業となったものである。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>地域生活支援事業の中に自動車改造費・運転免許取得費助成とあるが、多くの自治体で実施されているのか。</p> |
| <p>福祉推進 室長</p> | <p>国の補助対象事業で、実施するかどうかは任意である。阪神間では各市実施しており、宝塚市では、年間3,4件である。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】障がい者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『2 社会参加を実現し、安心して暮らしていけるよう、就労の支援や生活の場の確保、権利擁護に取り組みます』</p> | |
| 委員 | <p>障害者の求人需要が高まったとあるが、その理由は。また、最低賃金については保障されているのか。</p> |
| 福祉推進室長 | <p>今年度から障害者の法定雇用率が引き上げられているのがその理由である。就労支援事業 A 型事業所については最低賃金の保障があるが、それ以外の作業所については対象外である。</p> |
| 委員 | <p>低い賃金であっても、働く喜びや社会参加につながっている部分がある。</p> |
| 委員 | <p>障害者小規模通所援護事業は他都市であまり見られない。</p> |
| 福祉推進室長 | <p>兵庫県では障害者小規模通所作業所の地域活動支援センターへの移行を進められているが、現在も残っている。利用者の年齢が高くなってきており、今後縮小していく。</p> |

| | |
|--|--|
| 【基本目標】健康・福祉 | |
| 【施策】障がい者福祉 | |
| 【施策展開の方針】『3 障がいのある児童の成長を支える取り組みを推進します』 | |
| 委員 | 児童福祉法の改正により新しいサービスが増えたと思うが、整備は進んでいるのか。保育所等訪問事業については人材不足もささやかれている。 |
| 子ども室長 | 平成24年度に児童福祉法が改正され、障害児相談事業については平成25年度から実施している。保育所等訪問事業については平成25年内の実施を予定している。保育所等訪問事業については、子ども発達支援センターの職員で実施するもので、保護者からの申請があって初めて訪問にうかがう。現在、アンケートで要望をまとめており、体制を整えたい。 |
| 委員 | 制度が頻繁に変わるため、利用者も混乱するのではないかと。制度周知は図っているのか。 |
| 子ども室長 | これまでは施設の職員に訪問指導を行っていたが、これからは直接保護者への指導となるため、制度周知については対象者に文書で通知するなどで行っている。 |
| 委員 | 私立保育所保育実施事業について、平成23年度から1億1千万円ほど事業費が増えているがこの理由は。 |
| 子ども室長 | 120人定員の私立保育所が整備されたので、その運営費として事業費が増えている。 |
| 委員 | 各保育所からの決算報告について監査は実施しているのか。 |
| 子ども室長 | 認可保育所の監査は県が指導監査を行っている。市では単独助成と法定負担分の運営費助成を行っており、助成金の実地調査を行っている。運営費については国が1/2、県が1/4、市が1/4の割合で負担している。 |

| | |
|--|---|
| <p>【基本目標】健康・福祉</p> <p>【施策】障がい者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『4 ノーマライゼーションの理念に基づき、「シンシアのまち宝塚」にふさわしい、人にやさしいまちづくりの実現を図ります』</p> | |
| 委員 | <p>障害者の啓発事業の中で、補助犬の啓発に関する記述が多くないか。</p> |
| 福祉推進室長 | <p>市レベルの自治体で補助犬の啓発を行なっているのは、たぶん宝塚市くらいであるので、補助犬のことに踏み込んで記載している。</p> |
| 委員 | <p>飲食店等での入店拒否について、罰則を設けるなどの対応策はないのか。</p> |
| 福祉推進室長 | <p>まずは身体障害者補助犬法について理解いただき、補助犬が認知されることが必要であると考えている。法律の施行から10年が経過するが、全国で補助犬が67頭しかおらず、周知が図られていない。</p> |
| 委員 | <p>バリアフリーは推進されていると思うが、達成率はどの程度か。</p> |
| 政策推進課副課長 | <p>歩道段差改良箇所整備率は現在97.75%であり、道路の段差についてはほぼ解消されている。</p> |
| 委員 | <p>障害者施策について、宝塚市は他市と比較して先進的に取り組まれており評価したい。ただ、障害者福祉事業についてはたくさんの事業があってわかりにくいので、それぞれの事業費を分けるなどすればより事業への理解が進み評価されるのではないか。</p> |
| 福祉推進室長 | <p>大きくりの事業が多いとのご指摘はいただいております、なるべく事業の中身が分かるよう工夫していきたい。</p> |

委員長 次回の日程の確認をお願いします。

事務局 次回、第4回については、9月6日（金）午後1時30分から3-3会議室で開催する。審議いただく議題は、「社会保障」、「人権同和」、「男女共同参画」の3つの施策分野、8つの施策展開の方針であるので、よろしくをお願いします。第5回については、第4回までの議論の総括的なまとめと確認を行いたい。

委員長 本日は午前、午後と長時間にわたり大変お疲れさまでした。これにて第3回行政評価委員会を終了する。